
私人詩人

上下 左右

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私人詩人

【Nコード】

N3543BA

【作者名】

上下 左右

【あらすじ】

お暇があれば、読んでください。

戀ワズライ／Doll↓／かくれんぼ／体内物語

戀ワズライ

脳内に特定人物の映像を刷り込んで
それを幾度となく再生し

更には人に対して抱くべからずな

『所有シタイ』などという欲なんかを
理性が未熟なワタクシメなどが
所持していてもいいのでしょーか

人は病気と呼びますね 戀ワズライ

ときに『会い』だけで愛に行けます
変換は無限であり故に滅茶苦茶で
それを愉快なものだと言えるのも
きつと今だけなのでしょーね

身体が特定人物の一挙に疼いて
それを抑えることもせずに
更には傲慢の極みとも言うべきの
『愛サレタイ』などという欲なんかを
本能至上主義のセイブツなどが
所持していたら問題でしょーか

一種の中毒なのですよ 戀ワズライ

ときに『哀』さえも愛になります
解釈は無限であり故に滅茶苦茶で
それを素敵なものだと言うけれど
きつと皮肉なのでしょーね

つまり罪でない故に
この『会い』で『哀』な感情を
誰も裁けずにいると
つまりそういうことでしょうか

アナタ君ホリックですね 戀ワズライ

そして『eye』さえも愛で捨てます
表現は無限であり故に滅茶苦茶で
それなのに心酔してしまえるのは
『戀ハ盲目』だからでしょうね

戀ワズライ（後書き）

恋する脳はバグになっちゃうぜ！的なイメージ。

恋愛系は苦手ですが、克服の為に書きます。

感想くださいー。

D o l l ↓

気付かないの
傷付かないの

ずっと丁寧に飾られていたのに
我らが主はそのガラスケースを
破片さえ残さないほど粉々に割った
何度も縫い合わせて魂を繋ぐこの身は
差し込む月影に刺されるだけで死ぬよ

全ては始めから支配されていたから
窮屈だって嘆いているだけでよかった
それだけで世界は味方をしてくれた

昨日までは 昨日までは 今日からは？

あらがえないの
あながえないの

ずっと永久の夢を見たかったのに
名も無き体は進化を望んでいて
自我が反対しているのも聞かず飛んだ
新たな群れに紛れた魂は更に疲弊して
そうしていくうちに自我はもう瀕死だよ

全ては始めから選択できてしまう
窮屈なのは自分という名の鳥籠

「守ッテクレル人は、おいくらですか」

一人だけだ 一人だけだ いつからだ？

何を望むべきかだけはわからないけれど
何を望んでいるのかわかりそうだよ

全ては始めから創造できる場所
未知なる未来は魅力的だけれど
同時に怖いとか思っているの

真っ暗闇 真っ暗闇 だって目を閉じている

D o l l ↓ (後書き)

そういえば成人の日だったなあ、と思い、書きました。

『大人になる』というより、『社会に出る』というイメージ。
感想ください！。

かくれんぼ

待つことに慣れる一歩手前で

「もおいしいかい」

許しを乞う声が震えているよ

「まあだだよ」

嘲笑が君の声だと気付いたの

無垢なかくれんぼ 永劫ゲーム

被害者を出して進む

君は今は何処に隠れていますか？

小指に絡み付いた赤い糸を手繰り寄せて

「みいつけた」なんて言えたらいいのに

僕はまだ鬼の仮面を剥がせないままだよ

母の手に覆われていた瞳

狭い世界は

僕の為の優しさだった事

わかるけど

好奇心を前に全ては無力

無垢なかくれんぼ 戦慄ゲーム

加害者を繁殖する

君は今は何から隠れていますか？

締め付ける赤い糸のせいで僕の小指は
血を流している キリリと痛んでいる
鬼の仮面が僕自身になってしまいそう

糸を手繰り寄せ君を得る
カワイソウな小指 カワイイ生命
ねえ素敵な発案をするよ
其の首に此の糸 食い込ませよう
ああ僕は加害者になった
さあ全てからもう逃げられないよ
隠れずにほら出ておいで

無垢なかくれんぼ 生死ゲーム
被害者かつ加害者
僕は今は何から隠れていますか？

かくれんぼ（後書き）

更新できるときに、していくぞ。

「隠れているけれど、君も加害者だよ」というイメージ。感想くださいー。

体内物語

自分を信じる行為は罪ではない
でもそこから何が得られるの？

例えば何かを感じたって言っても
それは視覚や聴覚から得た情報に
幼稚な思考を少し重ねただけの事

けれど自負する為にそれに陶醉しているの

何を感じているのって訊ねる馬鹿

目から知って考えて口に出せば嘘が成立

100%の伝達など不可能

これは僕の体内で起きる話

言葉を求める行為は罪ではない
でもそこから何が得られるの？

種族存続に不可欠なのは身体で
五臓六腑に染み渡るのは食物で
疲労困憊に効果的なのは睡眠で

その他の欲なんて荷物でしかないよね

何を欲しているのって訊ねる馬鹿

不要な機能で無駄なものにまで手を出すの
+αが多すぎて重い命

これは僕の体内で起きた本能

持っている能力たちは
器用に生きようとしたら不足していた
単調に生きようとしたら邪魔してきた
だから嫌になったんだ

そう話したら「ねえ」って言った君

「ねえ 要らないならその体を僕に頂戴」
けれども狡いから首を横に振る僕

体内物語（後書き）

人間には、命だけじゃなくて心もあるという神秘。
厄介な奇跡だよな全くってイメージ。
感想くださいー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3543ba/>

私人詩人

2012年1月12日22時55分発行